

夢や希望を実現できるまちへ

市政運営方針

令和4年度の予算などを審議する市議会3月定例会が、2月25日に開会。4期目を迎えた山崎善也市長はこの日、新年度の市政運営方針を述べました。

持続可能なまちを市民とともに

本市は京阪神地域と程良い距離にあり、市街地がコンパクトに広がる自然豊かな田園都市で、とても住み良いまち。3万人余りのまちだからこそ、お互いの顔が見える関係が築けています。互いを思いやれる穏やかな人柄の多い地域性も相まって、市民はもちろん本市に関係する人が、それぞれの夢や希望の実現を目指して、支え合える土地柄であると感じていきます。

昨年4月にスタートした第6次総部市総合計画では、将来都市像を「一人ひとりの幸せをみんなで紡いで実現できるまち：綾部」に定めています。

す。本市に住む人や関係する人の、一人ひとりの人生の質の向上につながるよう、引き続き「医」「職」「住」「教育・情報発信」を施策推進のキーワードに設定。ここに住んで良かったと思えるような施策を展開し、持続可能な綾部市を市民とともに築いていきます。

スピード感持ち課題に対応

これまでの3期12年を振り返ると、3名もの尊い命を失った平成30年7月西日本豪雨など、度重なる自然災害が発生。災害復旧事業を最優先に取り組まなければならず、これに伴う財政状況の悪化で、予定していた事業の先送りを余儀なくされて

した。

さらに、誰もが想像し得なかった新型コロナウイルス感染症は、世界中で流行。現在も収束する兆しはなく、感染の拡大と減少を繰り返しています。ワクチンの追加接種や検査体制の構築など、感染拡大防止対策を進めるとともに、経済活動への支援策を講じるなど、喫緊の課題にスピード感を持って対処していかねればなりません。

田園回帰の流れつかむ体制整備を

一方、このコロナ感染症の拡大は、多様な暮らし方や働き方をもたらしました。デジタル技術の進展も相まって、人口の東京一極集中の流れが鈍化。田園回帰の流れが加速しています。移住先に本市が選ばれるよう、戦略的な受け入れ体制の整備が必要で、また、移住者だけでなく、市民が暮らしやすいまちになるよう、各種施策を展開することが大切です。

そこで、田園回帰とともにデジタル化に対応し、都市とのギャップを縮め、地方都市でもそれぞれの夢や希望を実現できるよう、スマートシティの実現に向けて取り組みます。さらに、里山交流研修センターを、

先送りした事業など実施

環境に配慮した魅力ある施設として再整備。農村・都市交流を通じた関係人口創出に寄与する拠点施設にしたいと考えています。

まちなかでは「図書館」と「地域子育て支援拠点施設」、「地域交流施設」の3つの機能を持った複合施設を建設。令和4年度に着工し、令和5年度の完成を目指します。また、宮代豊里線拡幅改良は、令和4年度内の完成を目指します。

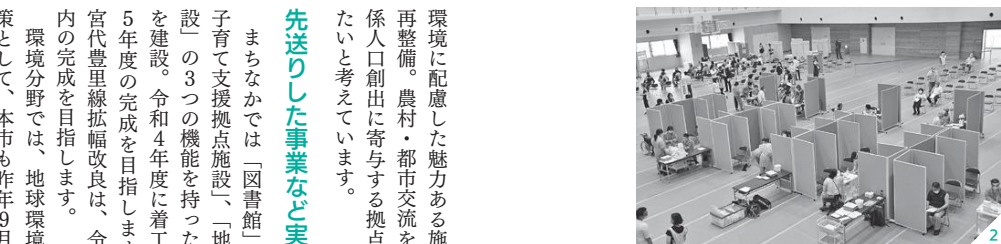
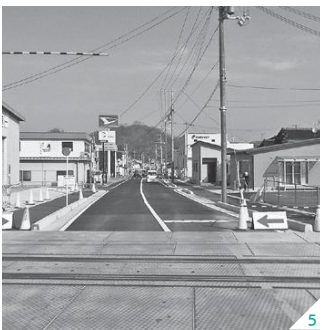
環境分野では、地球環境を守る対策として、本市も昨年9月に「ゼロカーボンシティ」を宣言。環境負荷の低減や再生可能エネルギーの活用について検討を進めるとともに、二酸化炭素を吸収する森林整備の促進に努めます。

また、本市は4月1日から、過疎地域の指定を受けることとなりました。早期に「過疎地域持続的発展計画」を策定し、国による有利な財政支援を活用。本市施策のさらなる振興にソフト、ハードの両面で取り組みます。

複雑化する課題にオール綾部で

令和4年度当初予算は、令和3年度3月補正予算と合わせ、コロナ後

を見据えた「守り」と「攻め」の両方に重点配分。将来への種まきと、先送りを余儀なくされた事業を前進させる予算編成としました。少子高齢化や価値観の多様化、大規模災害・感染症リスクの増大、コロナ禍の行動変容に伴うデジタル社会の進展など、行政課題は一層複雑化、多様化し山積しています。しかし、市民や企業、各種団体の皆様との連携をもつて臨めば、本市はさらなる発展を遂げられると確信しています。初心を忘れることなく、至誠一貫、創意工夫を持って、本市の将来のためにまい進します。



1/ 所信を述べる山崎市長=2月25日、本会議で 2/ 迅速に新型コロナワクチンの接種体制を整えるなど、感染症対策を推進 3/ 庁内のデジタル化のため、市役所内にウェア会議用ブースを設置 4/ 太陽光パネル設置をはじめとした、脱炭素への取り組みを推進 5/ 令和4年度に工事完了予定の宮代豊里線 6/ 都市との交流の拠点として、さらに魅力ある施設に生まれ変わる里山交流研修センター 7/ 令和5年度に供用開始予定の駅北複合施設(イメージ)

移住の相談はおまかせ

「ここらへんのこと」つたえ隊

「ここらへんのこと」つたえ隊は、あやべ定住サポート総合窓口（以下、サポート窓口）と連携して本市への移住を勧めるボランティア組織です。移住を促し綾部を元気にする「移住立国プロジェクト」の実働部隊として、令和元年度から活動を開始。現在では、36の団体・個人が登録しています。



同隊のリーダー5人。左から工忠照幸さん（五泉町）、重本晋平さん（里町）、水田タコさん（上八田町）、石崎葉子さん（志賀郷町）、平田佳宏さん（上八田町）

地域紹介動画「あやべのここらへん」



動画の視聴は「移住立国あやべ」のホームページにある「ビデオで知る綾部の12地区」にアクセス。見たい地区を選ぶか右のQRコードをスマートフォンなどで読み取って閲覧できます。



つたえ隊から ひとつこと



動画に登場するイラストは、重本さん作

＼ここがポイント／

「地区の個性」が見えてくるのが面白いです。各地区にたくさんの魅力があり、何を選択するか迷いました。自分の実感がこもった言葉で伝えようと工夫しました。イラストは、明るく軽やかな印象が伝わるよう意識して書きました。自分たちの住むまちを知ることができると感じています。ぜひご覧ください！



まちづくりについて 市長と意見交換



同隊は2月22日、ふれあい出張市長室にリーダー5人が参加。山崎市長に同隊の活動や各リーダーの近況を報告しました。意見交換では、空き家の供給が課題▽観光と定住をミックスした取り組みが必要▽関係人口を増やすための体験型プログラムの実施一など移住促進と本市の魅力発信について提案がされました。

新規隊員募集中

同隊は、隊員を募集しています。申し込みは、個人のほか、商店や企業、団体でも可能。また移住者でなくても歓迎です。対応できる時間だけ旗を掲出するなど、活動方法は自由です。希望者に話しかけられたら立ち話で対応し、必要に応じてあやべ定住サポート総合窓口（定住・地域政策課）につないでください。

<問い合わせ>同課☎(42)4270

～人との出会いが活動の魅力～

つたえ隊として活動する中で、綾部市は移住者も多く、受け入れ体制が整っていることに気付きました。動画作成も初めてでしたが、たくさんの人に協力していただき自分なりの言葉で伝えることができました。「人との出会い」がつたえ隊の活動の一番の魅力です。



移住者の視点で地域を紹介



濃紺に白色で里山の風景をデザインしています

同隊は、Uターンやイターンで市外から本市に移住した人を中心に、農家民宿経営者や宅建業者などで構成しています。隊員の役割は、移住希望者（以下、希望者）に▽地域の行事や気候▽特色▽暮らしぶり▽自治会のルールなどを説明すること。移住者が地域になじみやすいように、地域住民になじみやすい役割を担っています。

市のサポート窓口担当者は「隊員と希望者がSNSで交流し、実際に移住につながるケースも多い。綾部の隠れた魅力を引き出していただき、本市の移住・定住施策に欠かせない存在」と話します。

隊員は、対応可能な時間帯に、店頭や玄関先に旗Ⅱ写真Ⅱを掲出。希望者が、地域のことを気軽に尋ねるための目印になっています。皆さんも探してみたいかがですか。

5人のリーダーがけん引

同隊の活動の中心は、リーダーの5人Ⅱ写真Ⅱ上。全員が市外からの移住者で、実際に住んでみて綾部に惚れ込み、多くの人に綾部の魅力を伝えたいとの思いで活動されています。市とリーダーは、隔月で会議を開催し、定住施策に関する意見交換や、それぞれの近況などの情報交換を行っています。

本年度の取り組みとして、希望者への情報発信を目的に、各リーダーが内容を企画し、12地区を紹介する動画「あやべのここらへん」Ⅱ5面Ⅱを作成。地域の人口や学校、施設、公共交通機関などを紹介しています。各地区で生活するリーダーならではの視点で、地域の魅力を7分間の動画に凝縮。綾部での暮らしを具体的にイメージできる内容に仕上がっています。



地域で活動する人にインタビューを行い、現場の声を多数収録しています